

童

2020年9月30日。

例年より早く季節が進んでいるように感じる毎日ですが、皆さんは、どう感じておられるでしょうか。農業を営み、自然の中で暮らしていると、特に敏感に感じるように思えます

まず、稲刈り時期が早い！！ 例年よりも、実りが早いです。そして、9月に台風が一度も上陸しなかったのに、あちこちで稲が倒れている（大地もそうですが）

次に、サツマイモの収穫が早い！！ いつもは霜が降る前の10月中旬以降ですが、父母の家ではもう収穫済み（大地もやってみましたが、大きさは十分でしたがまだ甘くなかった）

リンゴも着色が早く、そして実るのですが、ぼけも早い！！ 早生リンゴは、収穫してもすぐに柔らかくなる。更にアケビや栗の実りが、今年は少ない…… などなど、めまぐるしい早さで、秋がやってきて通り過ぎていくように感じています。

にじみ絵のように、ぼんやりと境目のないように季節の移ろいを感じるのではなく、今年は雨、猛暑、晴れ、雨などと区切りがはっきりとしているように感じます。そして、あっという間に秋本番になっているという今日この頃です。子ども達は、そんな早い季節の流れのとらわれずに、相変わらず大地の周囲を天候にかかわらず、毎日のリズムを維持して散歩を楽しんでいます。そして、収穫の秋に合わせて、終盤のスイカに始まり、リンゴなし、ぶどう、枝豆、そして栗などを味わっています。少ないながらも、いよいよ栗拾いが始まり、生栗をゴリゴリ食べる姿が開始されます。



これからの季節は、どのように変化していくか見通せませんが、ただただ去年のような自然災害に見舞われることなく、平穏な季節を祈ります。そして、子ども達がゆっくりと、秋を十分長く味わえるよう（食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋、紅葉の秋など）に、大地で、家族で、親子で、そして世界が穏やかにそしてエネルギーに過ごせるように願っています。

【水浸しのキャンプ】

テントを打つ雨音に目を覚まし、寝返りをうつと冷たい感触。それも7センチはある水たまり。時計を見ると午前1時。横を見ると、妻は何事もないようにぐっすり眠っている。すぐ外では、荒れている波音。カッパを着てテントのファスナーを開けて外へ出ると、10センチ以上の水がたまっているプール状態。まさに、水たまりの中にテントが立っている！！ これはまずい！！ と思いながらも、トイレを済まし、再びシュラフの中へ戻るが、雨音と潮騒と水浸しで眠れるわけがない……

オーストラリアのバイク旅行で、砂漠で豪雨のため孤立した思い出、数々の登山で何度も経験した豪雨の中でのテント泊、久しぶりの豪雨キャンプとしょぼいテントのお陰で、思いがけず懐かしい思い出がよみがえり、旅に来た気分が味わえた。と言っても、これからやるしかないか、久しぶりのレスキュー行動を起こすか！？ 荒れ狂う海は恐怖であるが、ここまで来ないし、なんと言っても、ここは砂漠でも山岳でもなく、いざとなれば、横付けの車に避難できるし…… もうちょっと必死さ、追い込まれた状況のほうが面白いかもなどと思いながらも、こんな惨めな濡れ気分なら、避難したいなという思いも出てくる。

カッパを着て、ヘッドライトをつけて、潰れたタープテントを収納片付けて、あちこち散乱した物を片付け、車内を整理して、眠れるスペースを作った。きっと、妻も避難してくるからそのスペースも確保。午前4時、案の定妻も車内へ入ってくる。さすが、一緒に海千山千を経験してきた妻は、洋服がびしょりだと言うだけで、平然と着替えて何事もないように再び車内で眠りについた。この時は、すでに水は引いていてプール状態ではなかったけれども。テント内は浸水状態。この悪条件悪天候この時間帯の下で女性だったらかなり動揺するでしょう……さすが、経験が違う！！

この間、テント内のものを片付け、テント撤収。先日のキャンプ入門セミナー通り、雨や暗闇でも超スピーディに撤収完了。あれやこれやの間に午前5時。ようやく明るくなって来る。雨が止んだので、椅子を波際に出して、コーヒーを沸かし、1人飲みながら、深夜からの悪戦苦闘を海を見ながら振り返る。こうしていると、1人40年前にオーストラリアを単独でバイクで旅行したこと、雷に打たれながら遭難寸前で死に物狂いで避難し続けた登山の事がめまぐるしく思い出されてくる。

そう言えば、今年は登山もしていないし、野宿専門なのでテント泊なし、つまり天候の良い時しか暮らしていない。だから、こんな状況は久しぶりだし、悲惨な状況で有りながら、どこか懐かしいうれしさがあるのだろう。ご存じのように、この2日間は、めまぐるしい天気の変化が有り、約1時間毎に雨が降ったり止んだりの天気がずっとリズムカルに続いた。それに合わせて、外へ出たりタープに入ったり、食べたり避難したり。まさに臨機応変、神出鬼没で自然と渡り合うことを楽しんだキャンプ。もちろん、天気予報は、雨100パーセントの中、あえて出かけてきたのだが、やはり面白かった。それでも、スケジュールは完璧100パーセント予定通り、雨が止んでいるときに全てを楽しめた。そして、それ以上にやはりご褒美があった。

まず、初めて見た海に映る、大花火大会。あれが噂の長岡の花火！！ と思うほどの対岸から次々に上がる花火。「花火やっている！！」と言うので、海岸で誰か若者が花火をやっているのかと思いきや、とんでもなかった。ちょうど食後のコーヒータイムだっただけに、ゆっくりと海が花火色に染まるのを楽しみながら、定番の最後のスターインまで、ありがたく楽しませて頂いた。寄付もしていないのに本当に感謝！！

そして、翌日は、雨と時々覗く晴れ間の連続。その中でも、一瞬の合間に青空と太陽そして青い海が広がった瞬間。これが、何度もあって、まさに感動的な雨と晴れのドラマチックな交差。これはすごかった。

究極は、帰り際3時頃の道の駅あたり付近に差し掛かった時。前方の車が次々に左に止まり、外へ出てスマホで何かを撮っている。天然記念物の動物か熊でも現れたのかと振り返って見ると……見たこともないような太いそして低い虹が、目の前の水田からきれいに右から左までかかっている。これはすごかった！！ 最高のクライマックス。

やはり、旅は、あえて厳しい道を選んだ方が面白い。臨機応変の対応は、やはり鍛えられるし、創意工夫が生かされる。それも、命がけだったら更に緊張感を生み、身にしみて、自分の糧になっていく。それが究極の旅の魅力であり、自分の身体に染みこんで行くのだろう。

先日、妻がタッチーこと滝沢さんに身体を見てもらった。「ノンタン母さんから波の音が聞こえます」と。恐るべしタッチーの診療。鳥肌が立った！！ でも、妻は、全くあの悪天候と格闘しておらず、無縁のまま眠っていただけだ。